

消防操法大会の課題について

1 操法大会の全国的な課題

○ 全国的な課題

・ 長期間の訓練による負担増大：

サラリーマン団員が増加する中、大会に向けた訓練等が仕事や家庭への大きな負担となっている

・ 実践との乖離：

実際の現場活動に即しておらず、過度に形式化・競技化している

・ 強制参加と同調圧力：

訓練等への参加が強制される事例が見受けられ、モチベーション低下や入団敬遠の要因となっている

2 操法大会の本県の課題

○ 本県の課題

- ・ 会場と事務局は今後誰が担うのか

輪番制を復活する場合、どの地区支部からどのように決めるのか

- ・ 消防団担当者（地区支部・市町村・消防本部）の過大な負担

市町村の担当部署において、大会に向けた予算確保や他業務への影響、職団員の動員・調整が過大な負担となっている

- ・ 全国大会への出場隊（県代表）をどう決めるのか

本県を代表して全国大会に出場する隊を、今後どのような方法・基準で選考していくのか

2 操法大会の本県の課題

○ 本県の課題（アンケートから）

・ 全体を通して県操法大会の「廃止・不要」を求める声が多い

消防活動での不満（負担）では「消防操法訓練（４２％）」が最も多く、各設問の自由記述内においても県消防操法大会の「廃止・不要」の意見が多いあった

・ 県操法大会への参加に対して

出場経験者の多くが「負担がとても大きい・ある程度ある（９０％以上）」と回答しており、仕事や家庭への過度な犠牲があることがわかる

・ 見直しの希望、今のままでは勧誘できないとの回答

現状の形を維持すべきと考える団員は少数にとどまり、７６％が「新しい形や工夫・改善」を求めており、また、７６％が「現在の形式で参加することや、若手に勧めるのは難しい」と回答

・ 県消防操法大会が消防団活動の継続（退団等）を考える要因に

大会の負担が消防団活動全体に悪影響を与えているとの回答が４４％、さらに２８％が「今後の活動継続（退団等）を考える要因になっている」と回答。大会の存在そのものが団員減少の引き金となっている

・ 実践との乖離と実践的訓練への転換を求める切実な声

自由意見でも「大会の廃止・不要論（１８５件）」「実践的な訓練への移行（１１０件）」が上位を占め、競技性よりも本来の地域防災力の強化を望む声が多いあった